

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

北海道赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	ティーンズドナー献血キャンペーン	全道の中学生から20代の若年層	協力者数 3,000人以上
2	サタデー・テーリング	小学生、特に高学年に献血の重要性を啓発する	期間 4～9月まで 参加者 3,000人以上
3	サマー献血キャンペーン	10～20代を中心とした若者	全道で5ヶ所まで実施。800人以上
4	施設見学や総合的な学習等の受入	学生(小・中・高・短大・大学)幅広く啓発を図る	参加者 600名 以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血事業所の開拓・確保	献血実施していない事業所や献血会場周辺企業等の啓発活動	現在、事業所が減少している状況であるが目標 15～20社
2	待機型企業・団体の確保	規模縮小の為、献血協力ができなくなった企業・団体。駐車スペース、他の状況で献血できない事業所。年一回実施事業所への要請。	動員協力団体 250～300社
3	事業所・団体等の研修会実施	献血の重要性と400mL・成分献血の啓発、強化	道内各センター 150社
4	成分献血協力団体・企業の啓発	待機型企業・団体及び小人数の企業・団体	現状 30社 目標 40～50社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがき・電話要請の強化	前回採血から期間があいている献血者	400mL・血小板成分献血者 応諾者数(実協力者数)3,000人以上
2	複数回献血クラブの設置・運営	複数回献血者会員メールによる啓発	年度会員 800～900名
3	献血処遇品の変更	献血者のニーズに合わせた処遇・一年間で3回の品物変更	新たに1,230名の複数回献血者を確保

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の作成	全血献血希望者	全道目標 79%
2	はがき・電話の依頼	400mL献血可能な方	400mL可能 応諾者数(実協力者数)2,000人以上
3	実施企業・団体の年間回数、実施時期等の精査	年2～3回以上実施企業・団体	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
4	推進キャンペーン・フォーラムの実施	複数回献血者可能者。 献血実施企業・団体	各イベント(ティーンズドナー 3,000人・サマー献血 500名) 献血フォーラム 400社

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

青森県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	はがき依頼	18～29歳の400mL献血可能者	22,500人の若年層を確保
2	セミナー開催	短大・大学生	6回開催、参加人数150人
3	はたちの献血キャンペーン	18～22歳の若年層	記念品を提供して2ヶ月で4,000人の若年層を確保

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力事業所・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	33社新規確保
2	緊急要請可能な企業・団体の確保	官公庁	10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応募者数1,000人以上アップ
2	はがきによる献血依頼	年1回の献血者	応諾者数1,000人以上アップ
3	献血実施場所の年間回数増加	年1回の事業所	24ヶ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	献血受付時の依頼	18～64(69)までの体重50kg以上	全施設で1,500人アップ
2	400mL推進のための事業所周り	献血協力事業所	300事業所訪問で2,000人アップ
3	受付場所での立て看板	18～64(69)までの体重50kg以上	全受付場所での1,080人アップ
4	高校集団献血時における400mLの受入依頼	18歳以上で50kg以上の生徒	50校で150人アップ

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	電話による献血依頼	血小板成分献血者	2人/日为目标に年間720人アップ
2	400mL献血キャンペーンの実施	18～64(69)までの体重50kg以上	4月、1月で800人アップ
3	ポイント制の導入	血小板成分献血者と400mL献血者確保	年間1,400人アップ

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

岩手県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	高校生に対する普及啓発	高校生・教職員	保健所・市町村献血担当者とともに訪問(91校)
2	大学・専門学校での献血実施	大学生・専門学校生	延べ45校
3	県マスコットキャラクターを活用した普及啓発	主に街頭献血会場	着ぐるみによる広報活動、キャラクターグッズの配付
4	親と子の血液センター見学会	小学4～6年生とその親	120名

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	非効率な事業所等の見直し	ランク区分下位事業所	効率的な配車計画、1稼働平均39.6人
2	市町村担当者、ブロック担当者が一体となり事前渉外・周辺渉外を強化	県内献血協力事業所・団体、献血未実施及び献血会場周辺事業所	効率的な配車計画、1稼働平均39.6人

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)900人以上
2	はがきによる献血依頼	街頭・定点献血協力者	応諾者数(実協力者数)3,500人以上
3	封書による献血依頼	登録者及び複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)1,500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	400mL献血率が県平均を下回る事業所への推進強化	400mL献血率が県平均を下回る事業所	効率の良い順にランク区分を考慮した運行計画
2	献血ルームで土・日・祝日は400mL・成分献血の受入日とする	400mL・成分献血可能者	施設別構成比の是正、混雑の解消
3	400mL献血基準を満たしている女性の勧誘	400mL献血の基準を満たす女性	8,500人
4	400mL献血希望で基準を満たさず、200mL献血の基準をクリアしても200mL献血に移行しない	400mL献血希望で基準を満たさず、200mL献血の基準をクリアした献血希望者	400mLから200mLへの移行を無くする
5	400mL献血に限定した献血会場の設定	県内事業所1,371ヶ所	県内事業所の1%
6	高校生に対する普及啓発の促進	学校献血を実施する場合、極力400mL献血が可能な3年生及び教職員	400mL献血受け入れ校を実施校の50%
7	ダイレクトメール等による400mL献血勧誘	400mL献血基準を満たしている200mL献血者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
8	所長による職員教育訓練の実施	検診医・全職員	随時

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

宮城県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	献血セミナーの開催	大学生	2回開催 参加150人
2	大学・専門学校(仙台市内)における学内献血推進強化	大学生、専門学校生	5回開催 献血者数300人 ※前年度より2割増の献血者数が目標。
3	はがきによる献血のお礼状送付	16～29歳の献血初回者	献血再来者数500人以上
4	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	献血再来者数500人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の開拓	献血未実施企業、及び献血実施企業の周辺企業等	114社新規登録
2	休眠献血団体への働きかけ	休眠団体	10社再登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者延べ数 1,000人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者(献血ルーム来場者)	応諾者延べ数 1,000人以上
3	年1回の事業所について複数回協力の実施	年1回の事業所	15社

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	400mL献血受入のみの実施日を設ける	満18歳以上の全血献血者	献血ルーム約100日、献血バス約200稼働
2	400mL献血受入可能な高等学校数増加	県内高等学校	3校
3	400mL献血比率の高い事業所への複数回の配車	年1回及び2回の400mL献血比率の高い事業所	上記③-1に含まれる
4	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者(献血ルーム来場者で400mL献血可能者)	献血応諾率15%以上(現在12%)
5	地域住民へのはがきによる献血依頼	献血実施地域の400mL献血可能者	献血応諾率10%以上(現在7%)

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	各市町村が設定する献血日(会場)を見直していただき、実績が低い場所の実施を取止めより献血者の多い会場へ配車していただくよう勧奨し、効率の良い採血が得られるようお願いする。	県内各市町村及び保健所	1台当たり50名以上の献血者が確保できるよう、各市町村の予定を、計画段階より見直す。
2	近距離市町村を宿泊・移動で実施する等、移動時間の短縮化を図り受付時間を有効なものにする。	同上	50稼働。
3	定点献血の増加	新規・大型ショッピングセンター	1ヶ所。年間12回実施し、献血者650名を見込む。
4	はがきによる会員登録の案内	依頼対象者	総会員登録者数 3,000人以上
5	メールによる成分献血予約の案内	複数回献血クラブ会員	成分献血予約 1,000人以上

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

秋田県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	講演会(またはセミナー)の開催	中学生・大学・短大生並びに若年社会人	参加者数 500人以上(10回開催)
2	はがきによる献血依頼	18～29歳の成分献血または400mL献血可能者	協力者数 1,200人以上
3	献血キャンペーンの実施	18～29歳の学生・社会人	協力者数 1,000人以上、期間中の10～20代献血者の構成比39%以上
4	高校生に対する感謝状の贈呈(卒業時)	在学中に5回以上献血協力のあった高校生	該当者数 400人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	20社新規登録
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	血液センター及び献血ルーム周辺の中小企業・団体	動員協力団体15社
3	成分献血協力団体の確保	既献血団体及び小人数の企業・団体	5団体新規登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数 500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間実献血者	応諾者数 1,200人以上
3	新規会員の募集	複数回献血クラブ未入会の献血登録者	入会者数 500人以上
4	情報誌の発行とリーフレットの配布	献血未経験者を含む県民	入会者数 120人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記①及び③の確保対策に含まれる)
2	ポスターの制作と掲示	県内各事業所	300ヶ所以上
3	献血会場での400mL献血に限定した受入	固定施設及び県主催「ふれあい献血キャンペーン」会場ほか	10回以上
4	高校献血における400mL献血受入	400mL献血可能者	3校

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

山形県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	献血セミナー開催	大学生・専門学校生	2回開催 参加200人
2	高校生ボランティア献血セミナー	高校生	1回開催 参加100人
3	若年層献血キャンペーン	18～29歳	参加1,000人以上、期間中10～20代献血者構成比

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および過去に協力実績のある企業・団体	20社新規登録
2	成分献血協力団体の拡大	献血ルーム近隣の企業・団体	10団体増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾率 20%
2	はがきによる献血依頼	主に400mL街頭献血者	応諾率 20% 応諾者数3,000人以上
3	献血団体の複数回実施	年1回の協力団体	12団体

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	400mL推進用チラシの製作	全献血希望者	全献血会場および保健所、市町村へ配布
2	はがきによる依頼	主に400mL街頭献血者	(上記③複数回献血者確保対策に含む)
3	献血団体実施日程の調整	複数回実施団体	400mL献血採血間隔、年間総量を考慮した献血実施日の策定
4	高等学校における400mL献血導入	高校3年生18歳以上の生徒	献血可能な年齢が多くなる下半期に依頼する。2校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	次回の電話予約	血小板成分献血者	7名/日を目標に年間2,500人を確保する。
2	電話による献血依頼	既血小板成分献血者	10名/日を目標に年間3,600人を確保する
3	ウィークデーの献血者確保	全献血者	平日の平均献血者を19人を25人まで増加する。

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

福島県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	ヤング献血21キャンペーン	高校、短大、大学、専門学校生	1回開催 50人参加
2	若年者献血セミナー開催	高校、短大、大学、専門学校生	2回開催 500人参加
3	青少年等献血ふれあい事業開催	小学、中学、高校	10回開催 500人参加

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	65社新規登録
2	新規献血協力団体の確保	中小企業経営者等で組織する団体	2団体新規登録および献血実施

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	協力者数500人以上
2	はがきによる献血依頼	大型店舗献血・街頭献血のみでの複数回献血クラブ会員および一般献血者で次回献血実施日に400mL協力可能者	協力者数300人以上
3	実施場所(企業・公的機関)の年間回数の増加	年一回実施企業や公的機関の大規模施設	15ヵ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	400mL協力啓発資料の作成	全献血希望者・献血予定事業所	全献血希望者数を配布
2	はがきによる献血依頼	400mL献血協力可能者	(上記3複数回献血者確保対策に含まれる)
3	実施場所と実施時期の精査	年3回以上の実施場所、団体	各市町村との細かな調整による計画策定

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	成分献血登録者募集中DMの作成配布	成分献血未経験者で可能者	4固定施設で年間800人確保する
2	定期的成分献血者確保対策(ポイントキャンペーン適用)	次回まで1ヶ月以内の成分献血者	4固定施設で一日一人増やし年間980人確保する

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

埼玉県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	彩の国献血フォーラム	若年層を中心とした献血者各層	参加者450人
2	出前講座	小学生、中学生、高校生、その他学生	20回開催 参加2,000人
3	親子ふれあい献血キャンペーン	幼児、児童及び両親	イベント参加者500人、献血者270人
4	卒業献血キャンペーン	高等学校卒業生	献血者200人
5	バレンタイン及びホワイトデー献血キャンペーン	若年層を中心とした献血者各層	移動採血車10台 献血者700人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	埼玉県(保健所)、市町村と血液センターの3者で新規献血協力事業所の開拓	献血未実施企業	50社新規登録
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	献血協賛に理解度の高い企業	30社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	会員数7,000人
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)20,000人以上
3	埼玉県(保健所)、市町村と血液センターの3者で年1回献血協力事業所への訪問	年1回実施企業	20社

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
2	高校献血実施の事前打合わせにて高校生の400mL献血についての理解を求める	献血実施している埼玉県内高等学校	5校増

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	次回の予約推進(特に平日)	血小板成分献血者	平日の平均予約人数35人
2	電話による献血依頼(水曜と木曜の予約率の向上)	血小板成分献血者	水曜、木曜の平均予約人数40人
3	メールによる緊急依頼	血小板成分献血者	応諾率15%